



国内・海外・金融経済データ

1. 国内経済指標

【ご注意】

本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

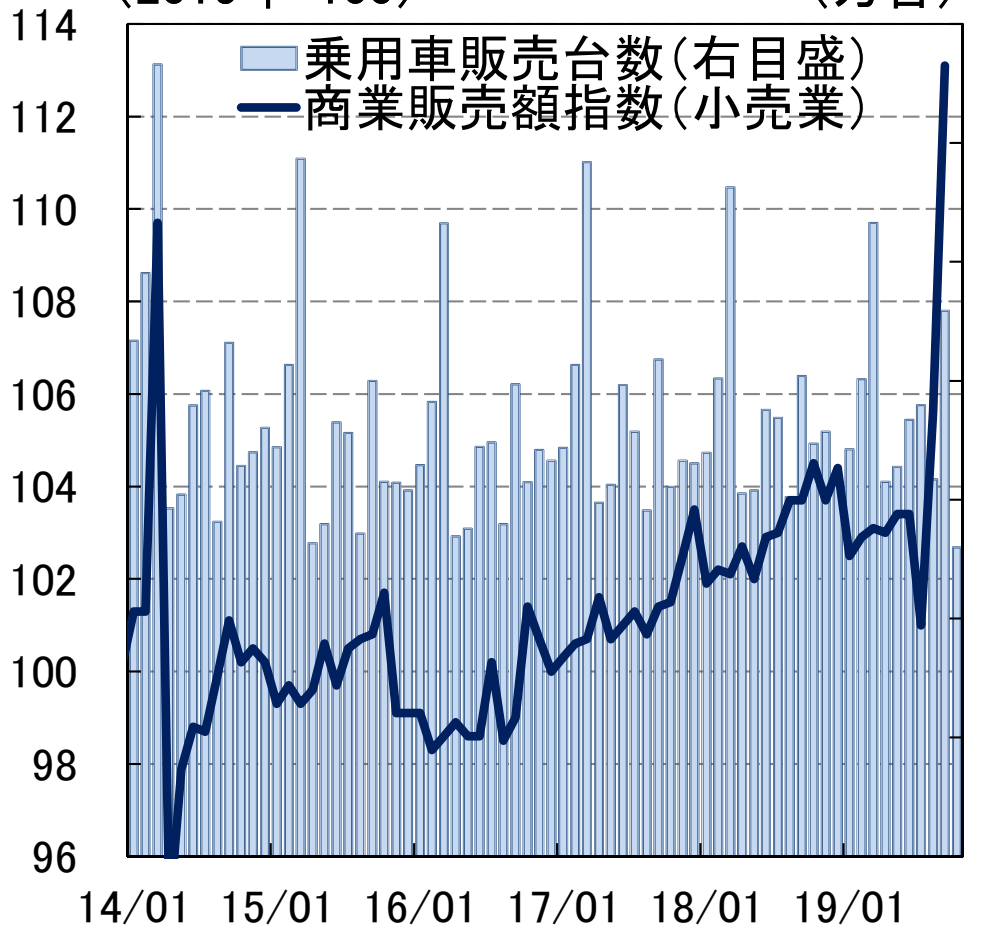
また、文中の情報は信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

※2019年11月12日時点のデータをもとに作成

個人消費はやや持ち直しの動き

商業販売額、乗用車販売台数

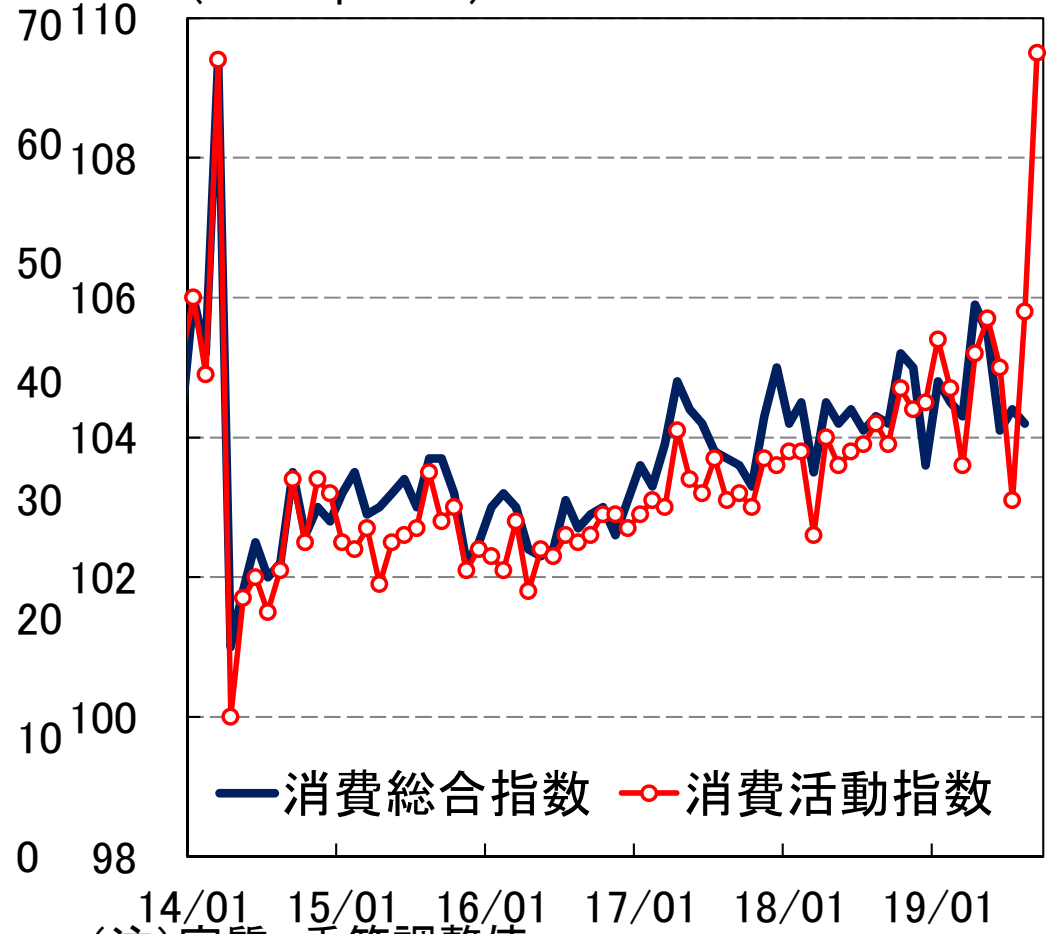
(2015年=100) (万台)



(注) 商業販売額指数は名目、季節調整値。
 (資料) 経済産業省「商業動態統計」、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

消費総合指数と消費活動指数

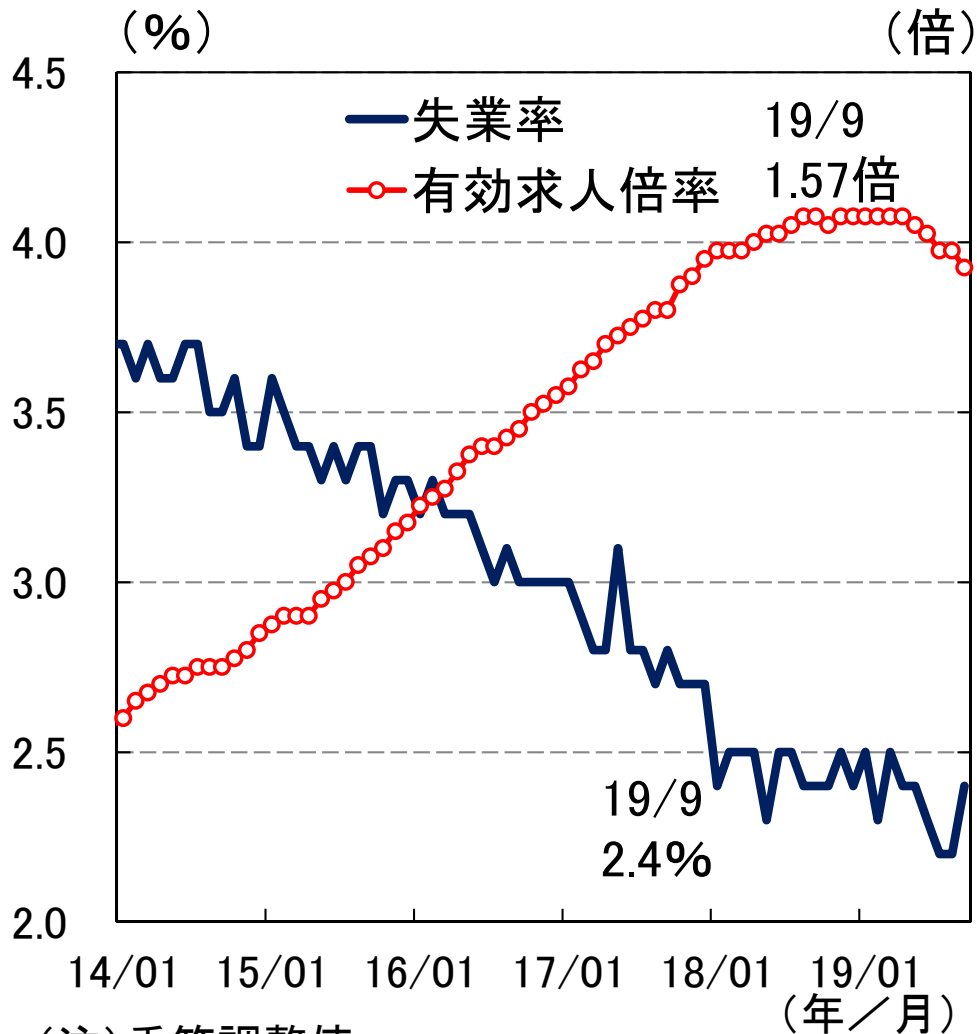
(2011年=100)



(注) 実質、季節調整値。
 消費活動指数は、旅行収支調整済。
 (資料) 内閣府「消費総合指数」、日本銀行「消費活動指数」

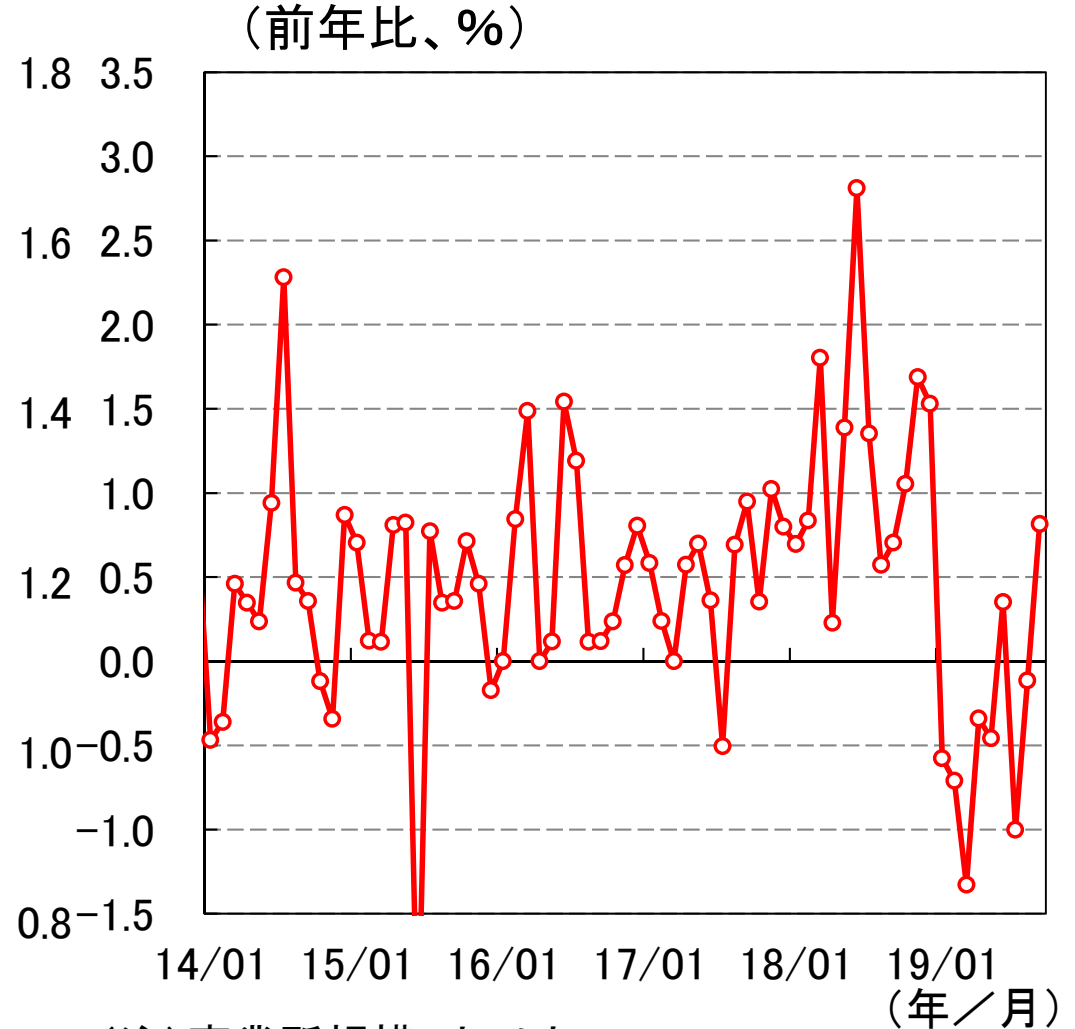
雇用環境は良好だが、賃金はやや弱含んでいる

完全失業率と有効求人倍率



(注) 季節調整値。
 (資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

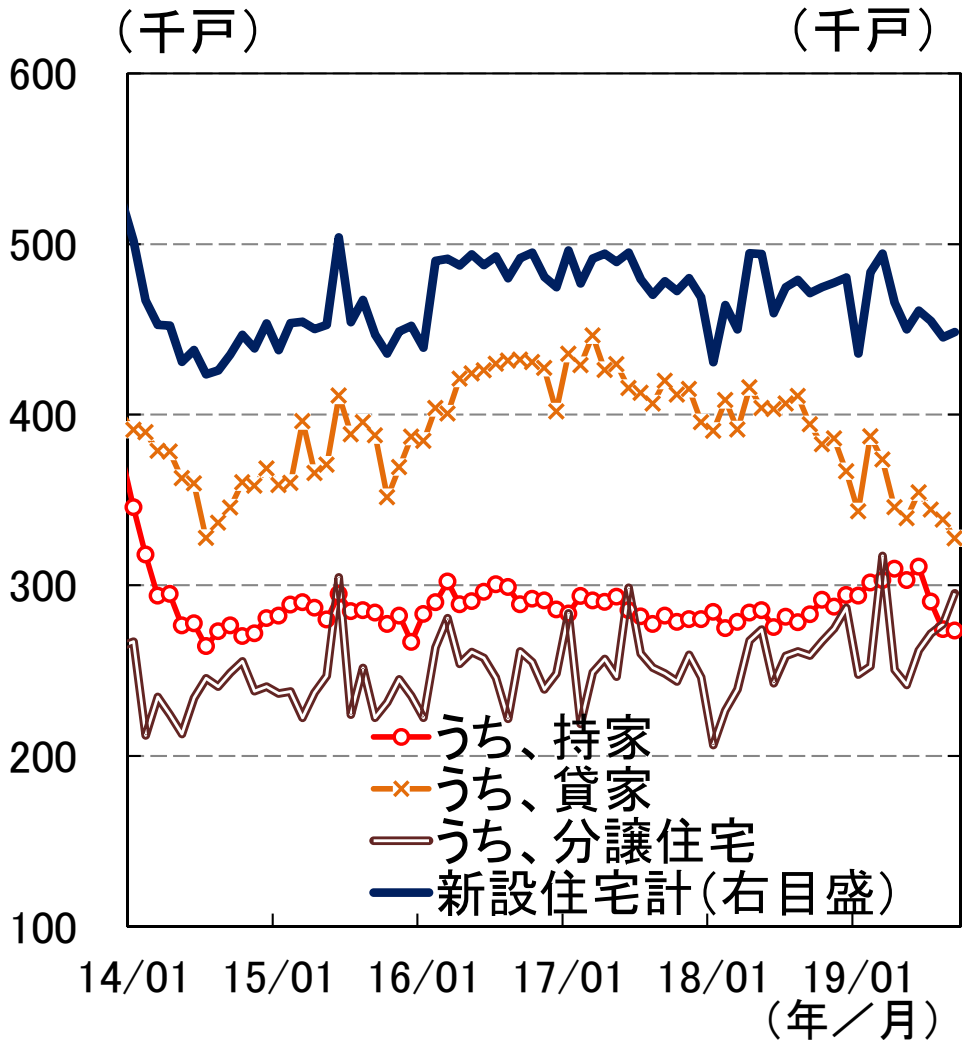
現金給与総額



(注) 事業所規模5人以上。
 (資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」

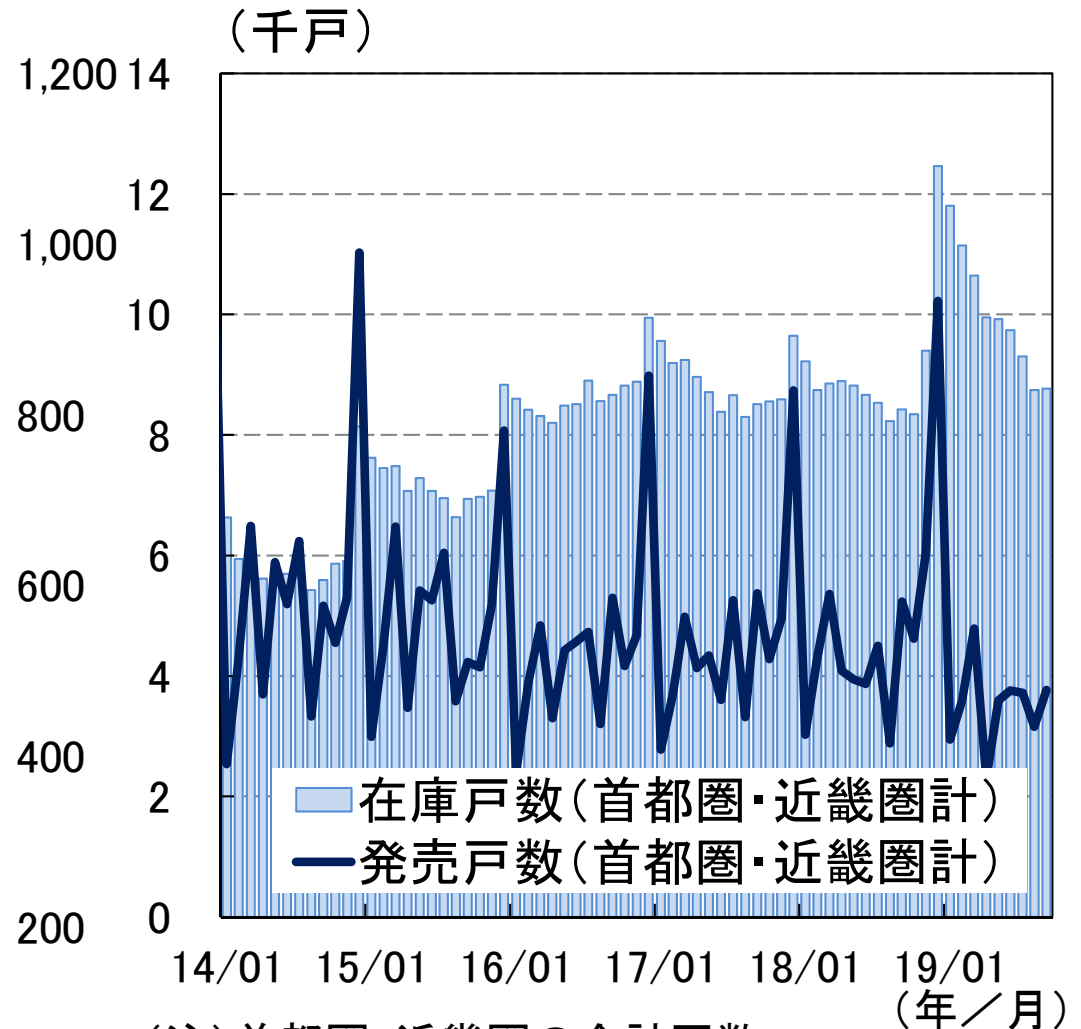
住宅投資は足元でやや弱含んでいる

新設住宅着工戸数



(注) 季節調整値の年率換算。
(資料) 国土交通省「建築着工統計」

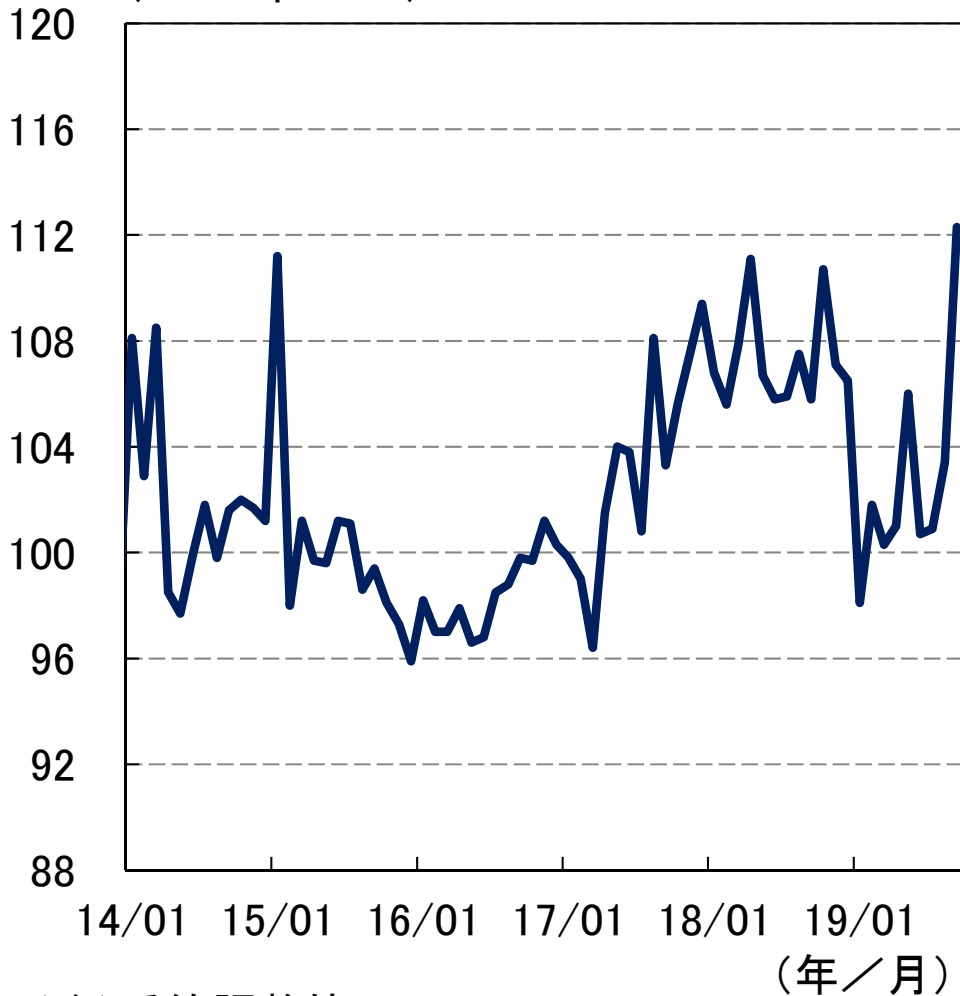
マンション発売戸数と在庫戸数



(注) 首都圏・近畿圏の合計戸数。
(資料) 不動産経済研究所「首都圏、近畿圏のマンション市場動向」

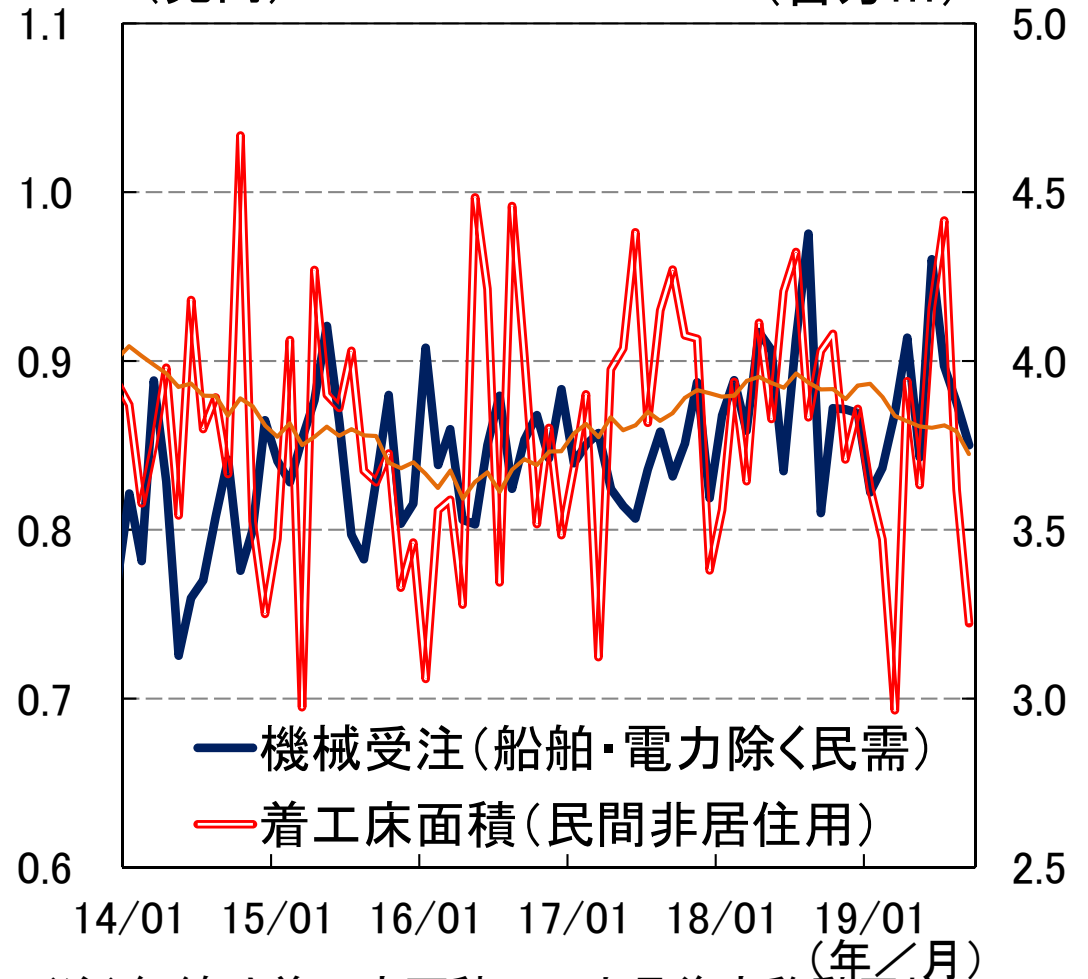
設備投資はやや持ち直しの動き

資本財出荷指数(輸送機械工業を除く)
(2015年=100)



(注) 季節調整値。
(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

機械受注額と建築物着工床面積
(兆円) (百万m²)

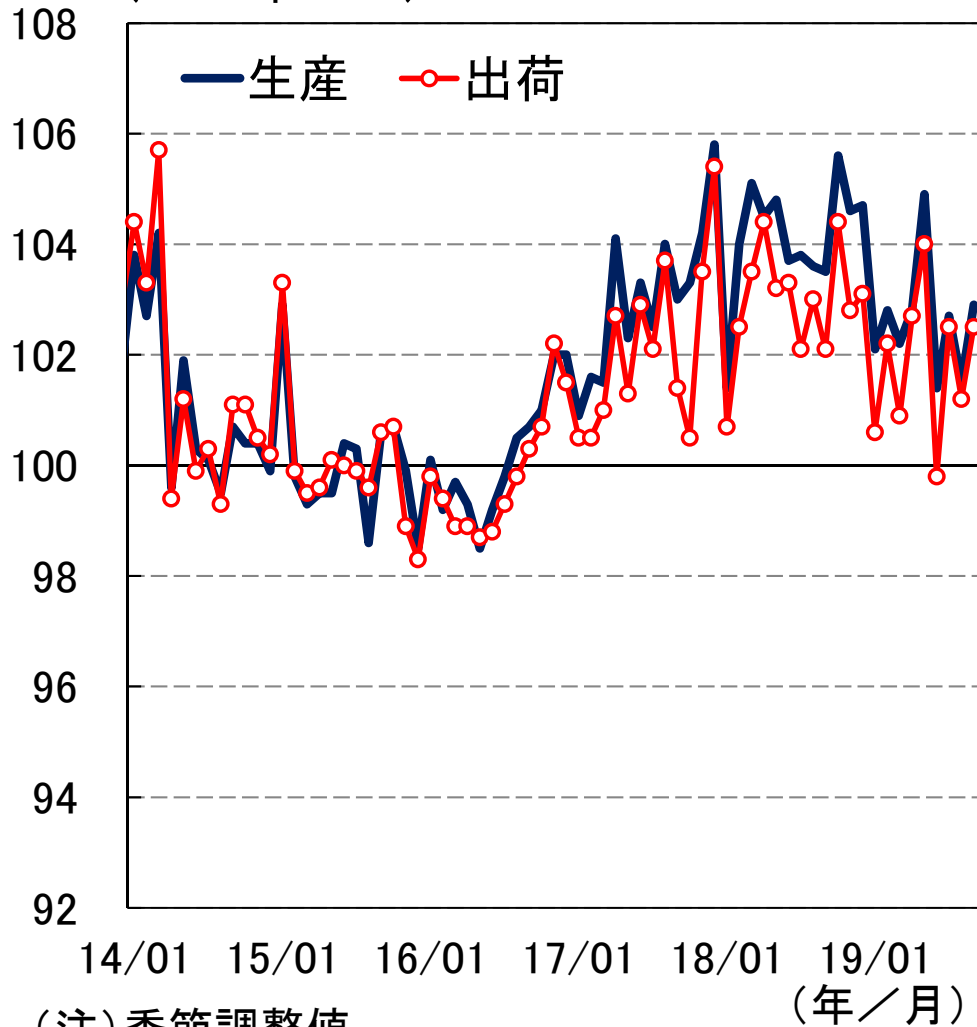


(注) 細線は着工床面積の12カ月後方移動平均。
(資料) 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」

生産は弱含んでいる

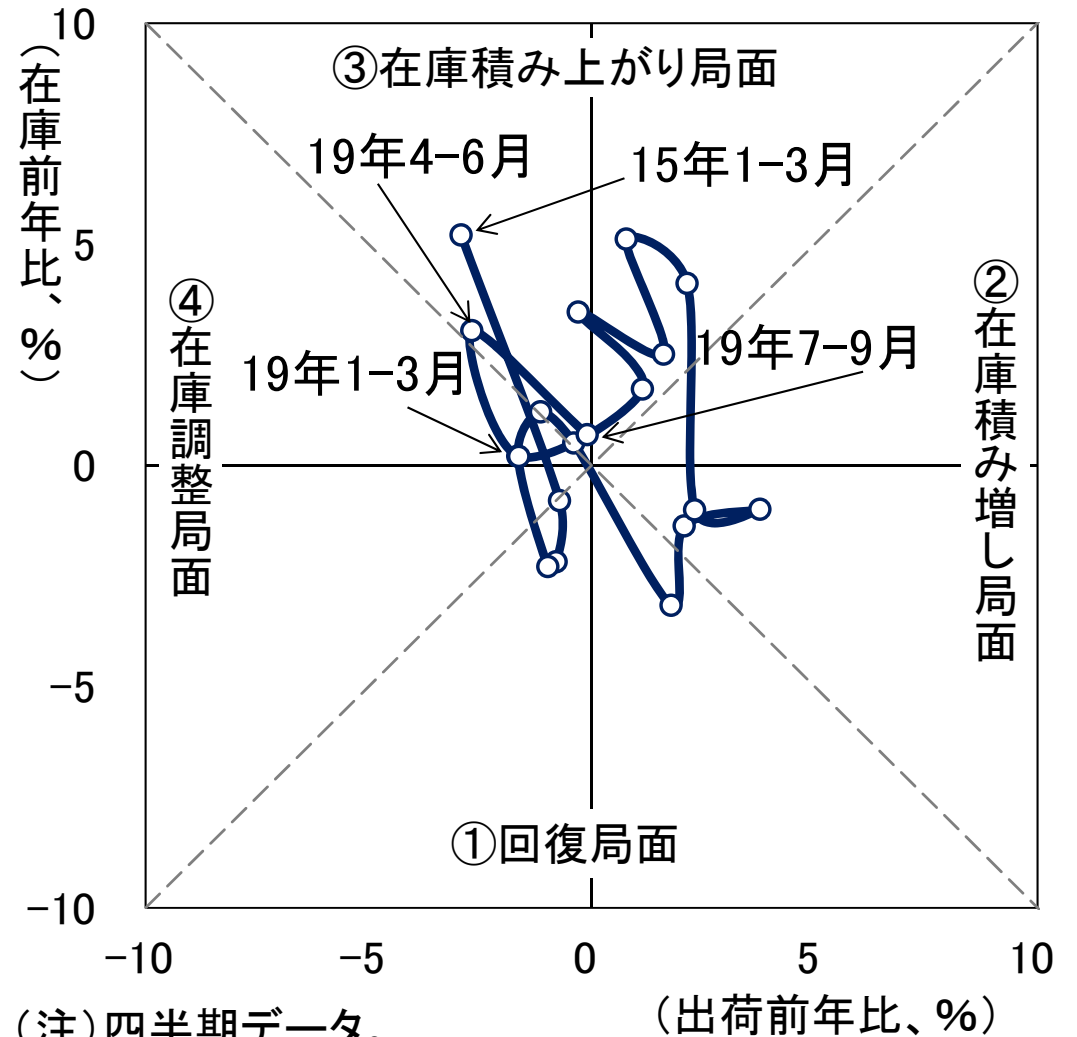
生産・出荷指数

(2015年=100)



(注) 季節調整値。
(資料) 経済産業省「鉱工業指数」

在庫循環図(鉱工業全体)

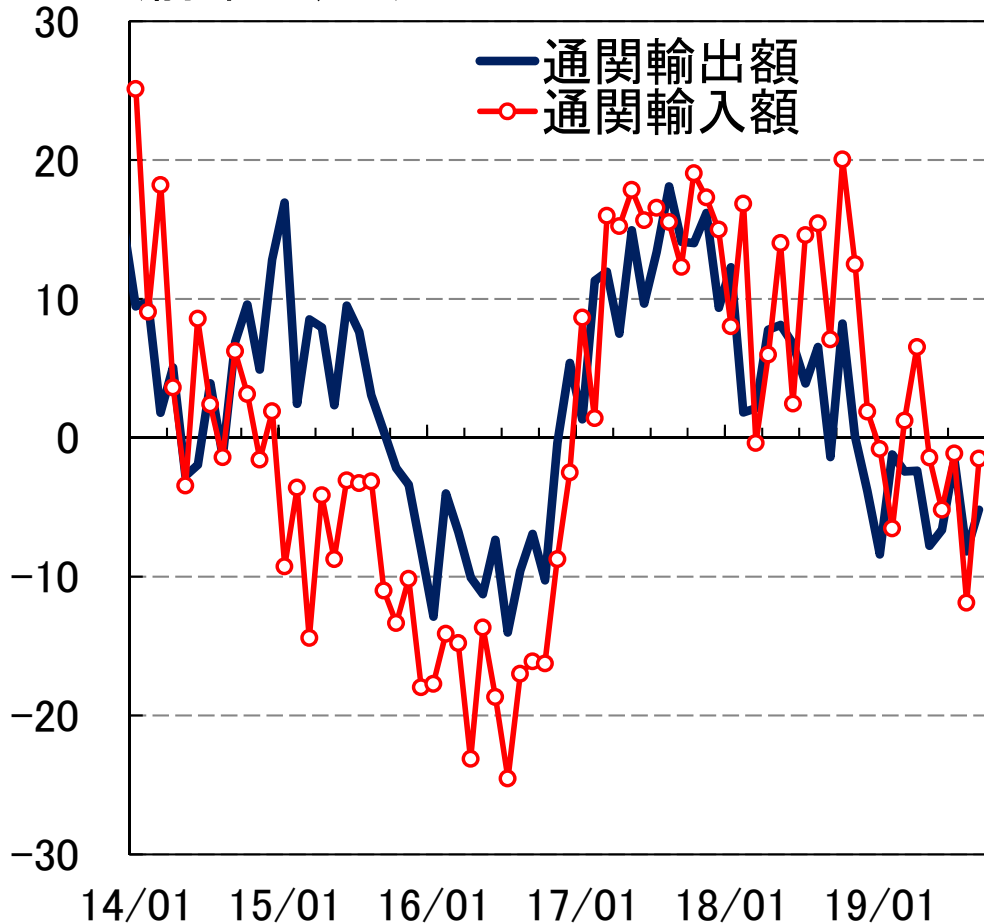


(注) 四半期データ。
(資料) 同左

輸出は弱含んでいる

輸出入額(名目)

(前年比、%)

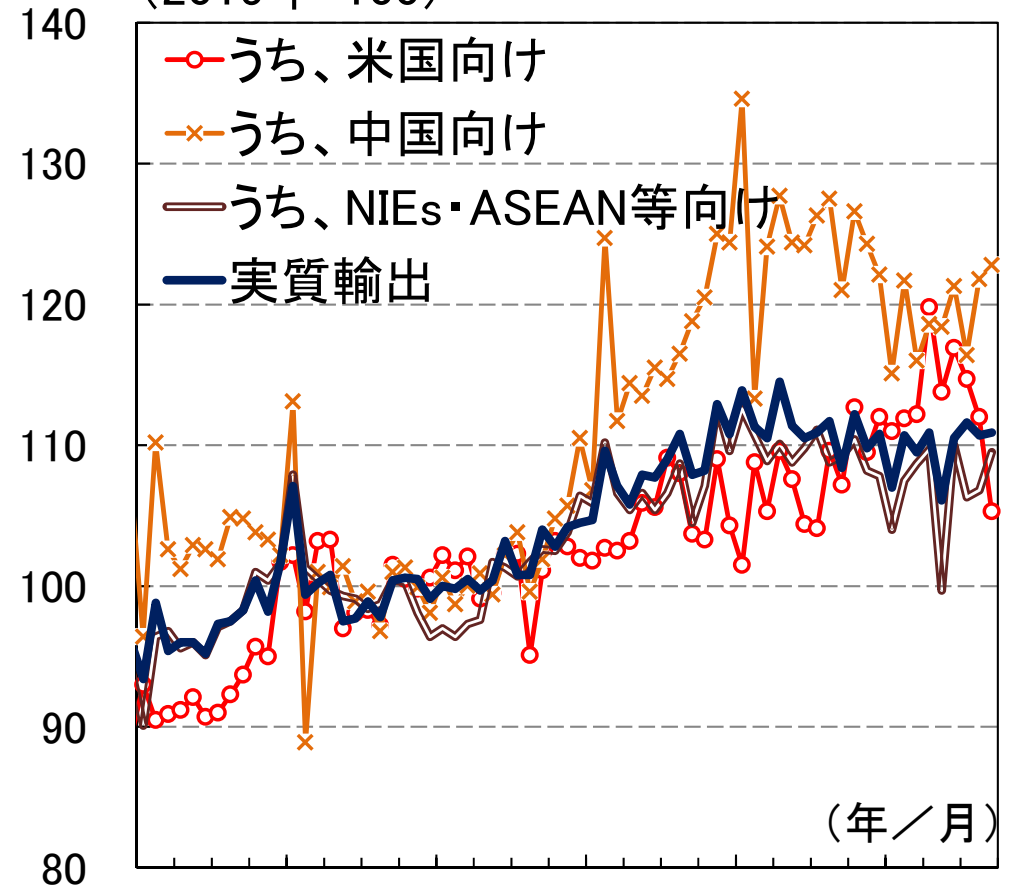


(資料)財務省「貿易統計」

(年/月)

実質輸出

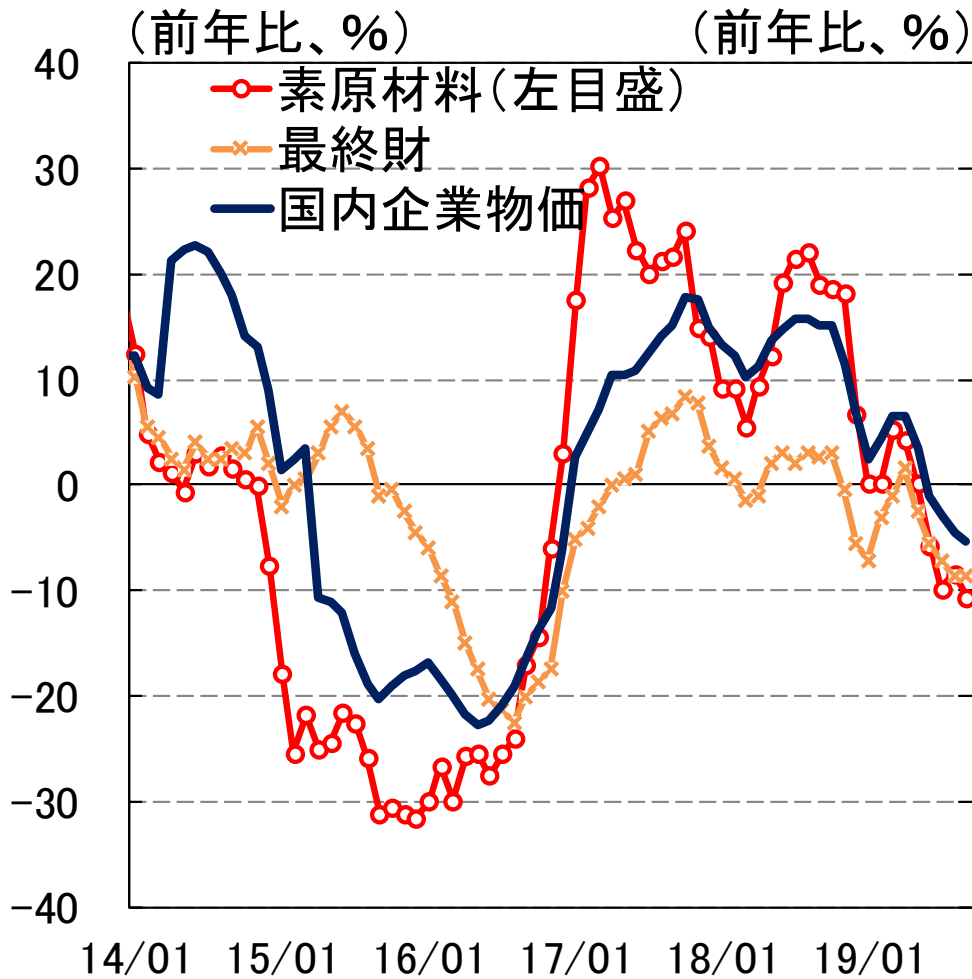
(2015年=100)



(注)実質、季節調整値。NIEs・ASEAN等向けは、インド・バングラデシュなどを含む。
(資料)日本銀行「実質輸出入の動向」

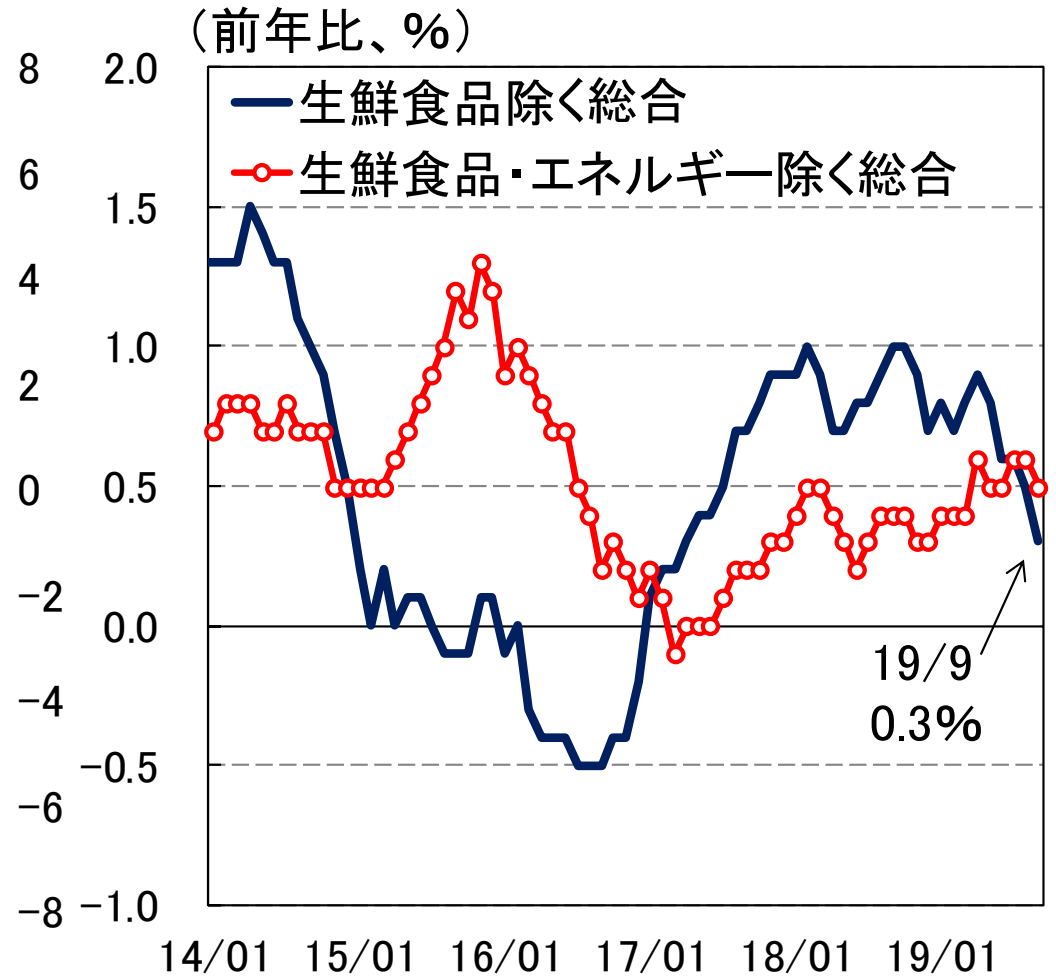
企業物価は緩やかに下落
消費者物価の伸び率は低下

企業物価指数



(注) 素原材料、最終財は輸入品を含む。
(資料) 日本銀行「企業物価指数」

消費者物価指数



(注) 日本銀行資料を基に、消費税率引き上げの影響を除く。
(資料) 総務省「消費者物価指数」、日本銀行



国内・海外・金融経済データ

2. 海外経済・金融関連データ

【ご注意】

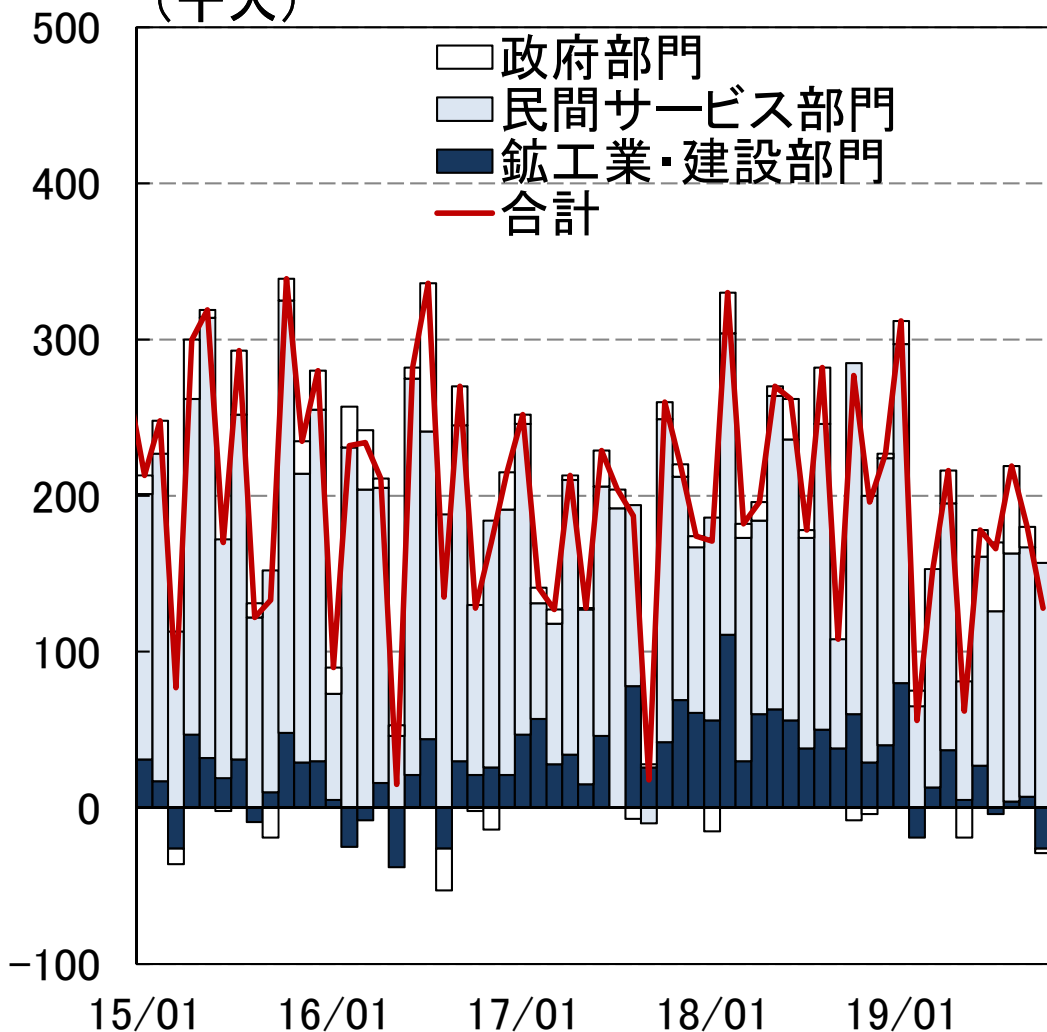
本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

また、文中の情報は信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

雇用者数の伸びがやや鈍化
個人消費は増加基調ながらやや減速

非農業部門雇用者数(前月差)

(千人)

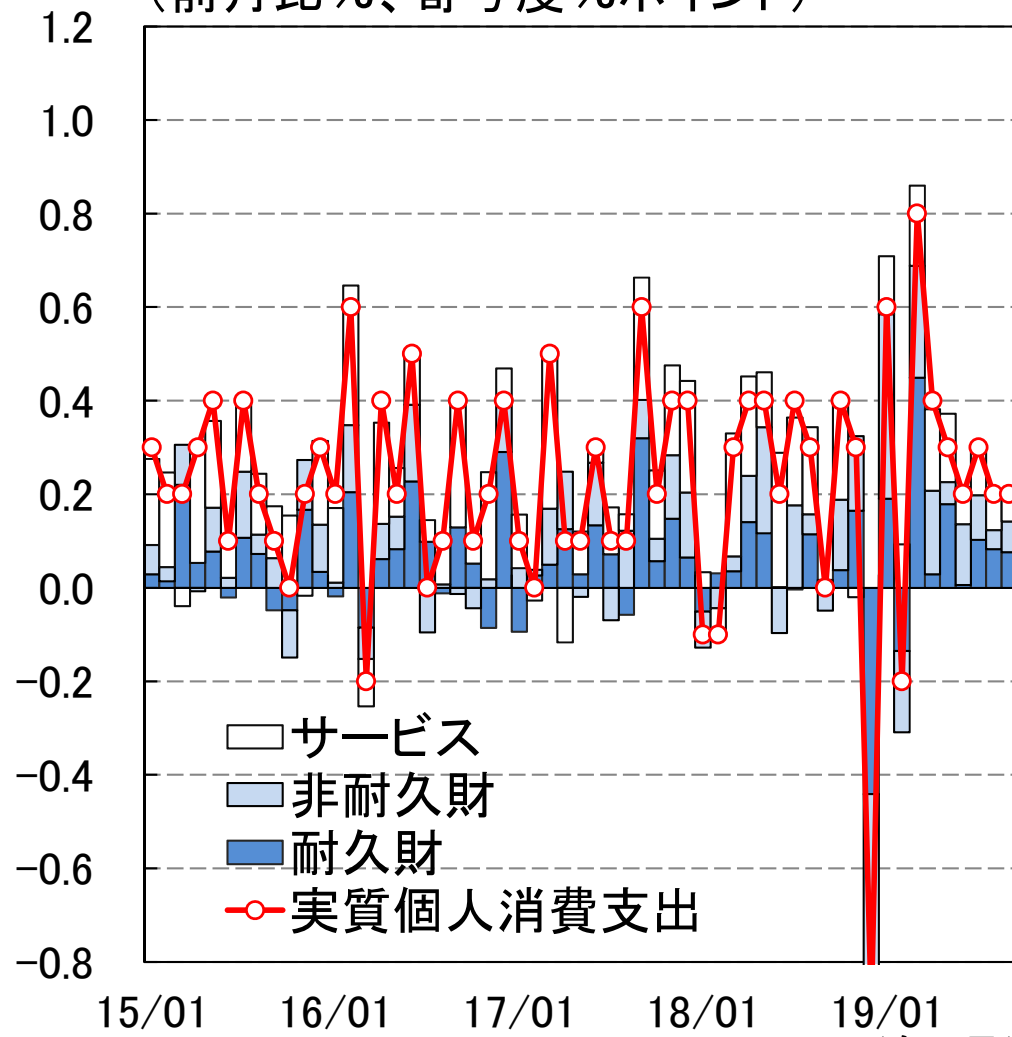


(資料) 米国労働省、Bloomberg

(年/月)

実質個人消費支出(前月比)

(前月比%、寄与度%ポイント)



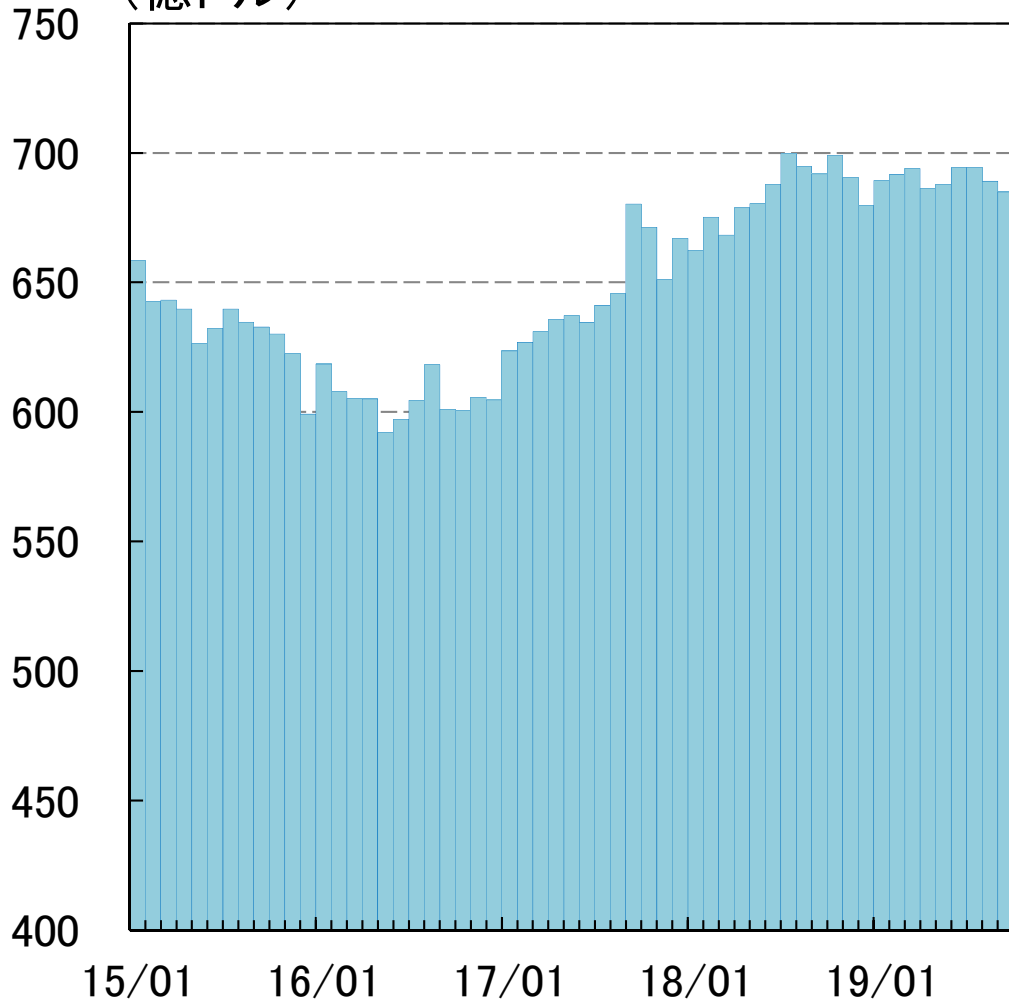
(資料) 米国商務省、Bloomberg

(年/月)

資本財受注には頭打ち感がみられる
 生産は頭打ち感があり、景況感は弱含んでいる

非国防資本財(除く航空機)受注

(億ドル)



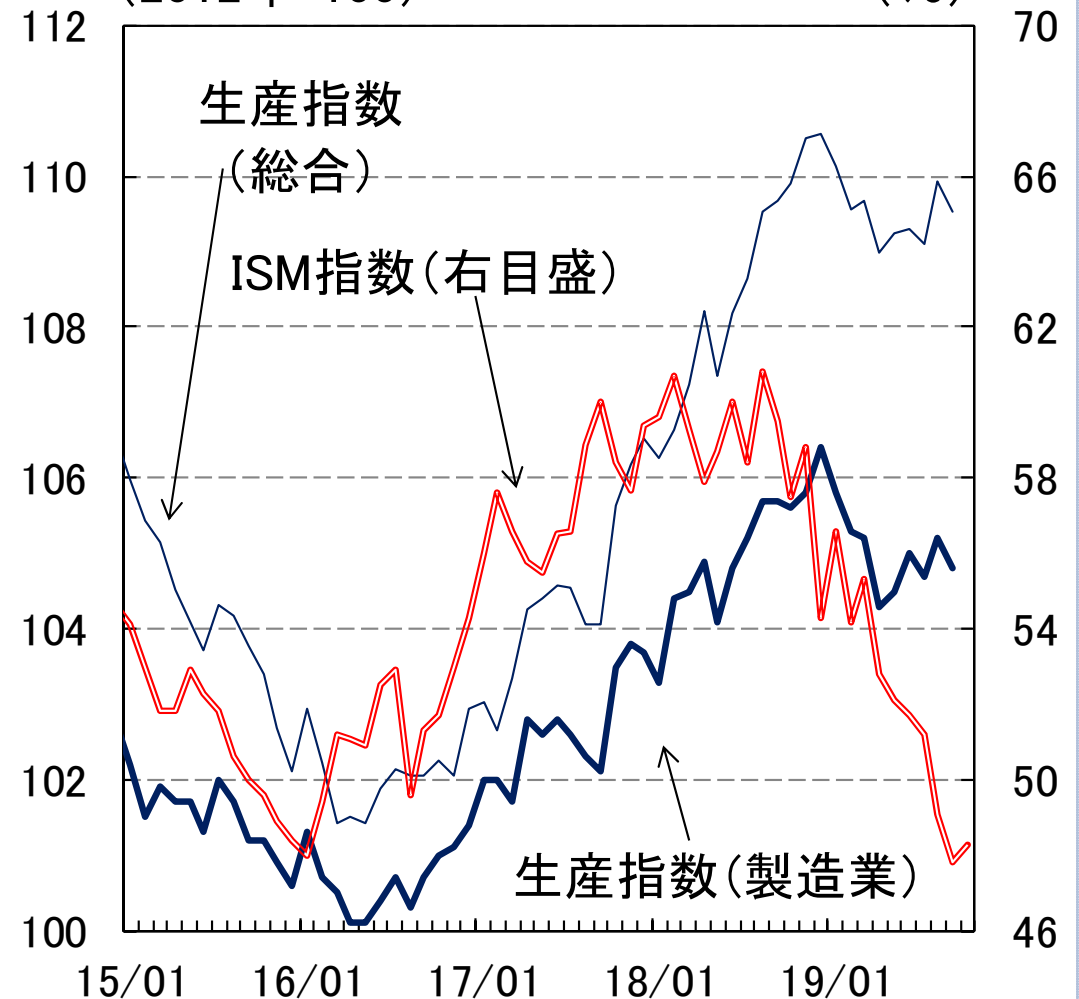
(年/月)

(資料) 米国商務省、Bloomberg

生産指数とISM指数

(2012年=100)

(%)



(年/月)

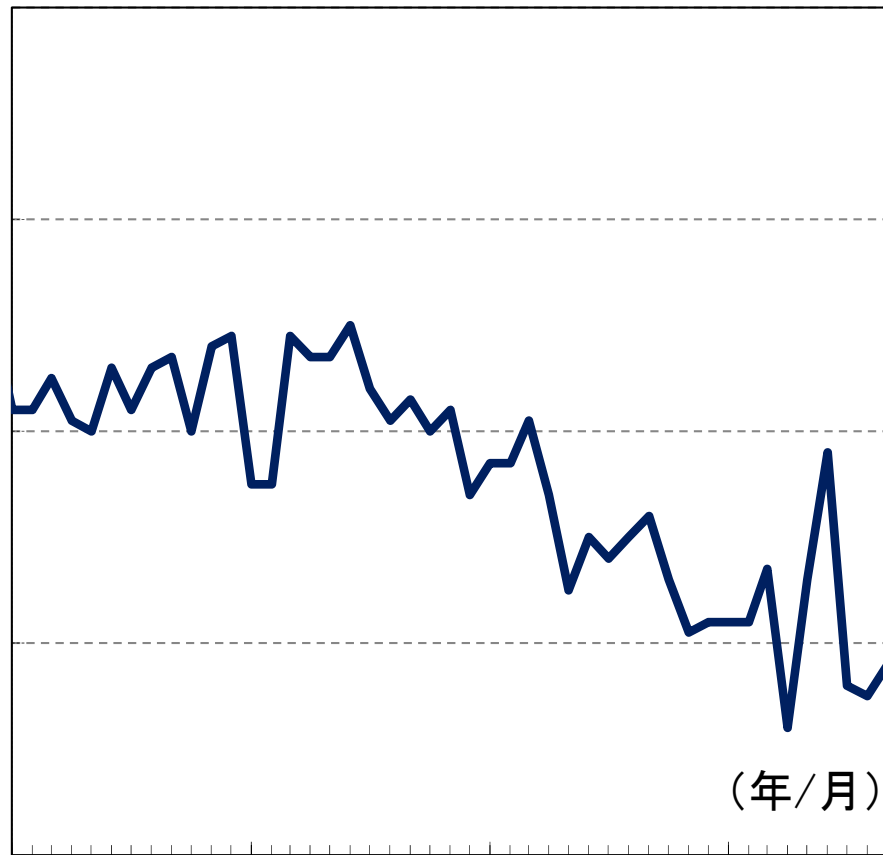
(資料) FRB、ISM、Bloomberg

消費は緩やかに鈍化

消費者物価指数（総合）の伸び率が上昇

消費財小売総額（名目、前年比）

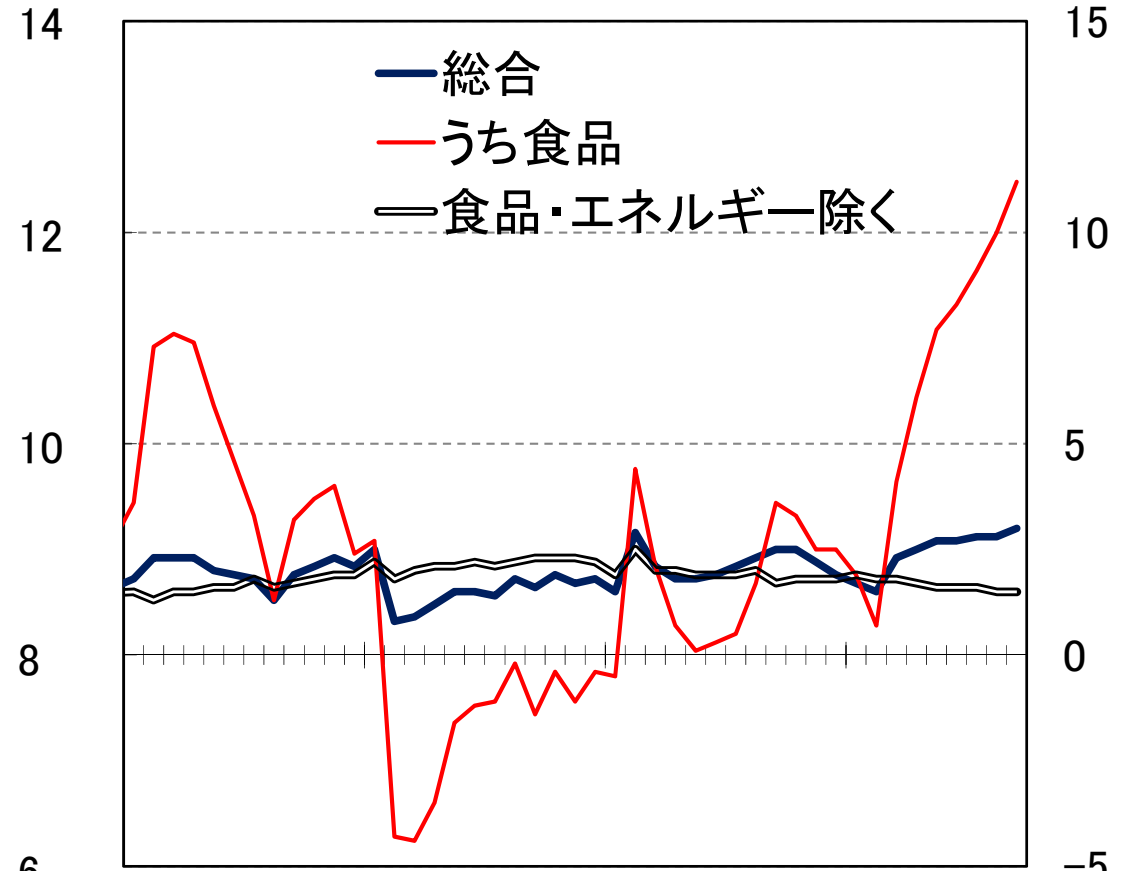
(%)



(年/月)

消費者物価指数（前年比）

(%)



(年/月)

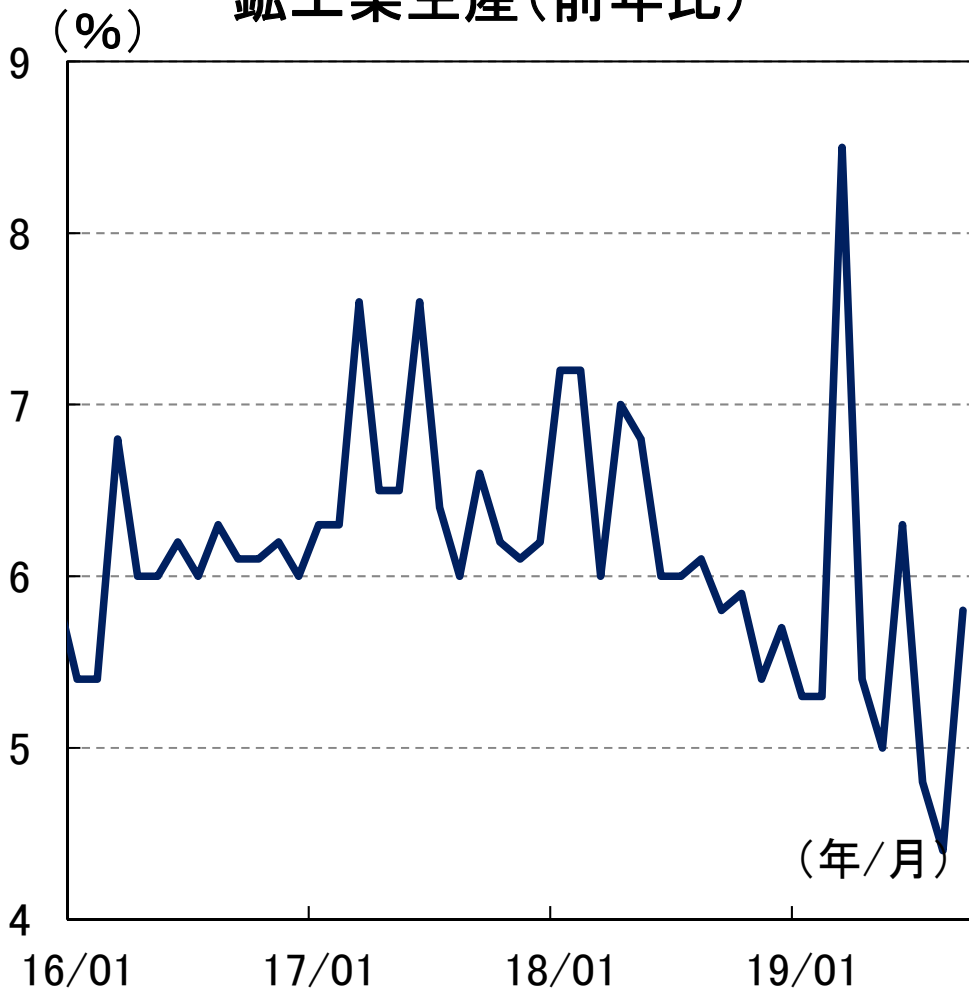
(注) 1、2月は単月計数未公表につき1-2月累計前年比を記載。

(資料) Bloomberg、中国国家統計局

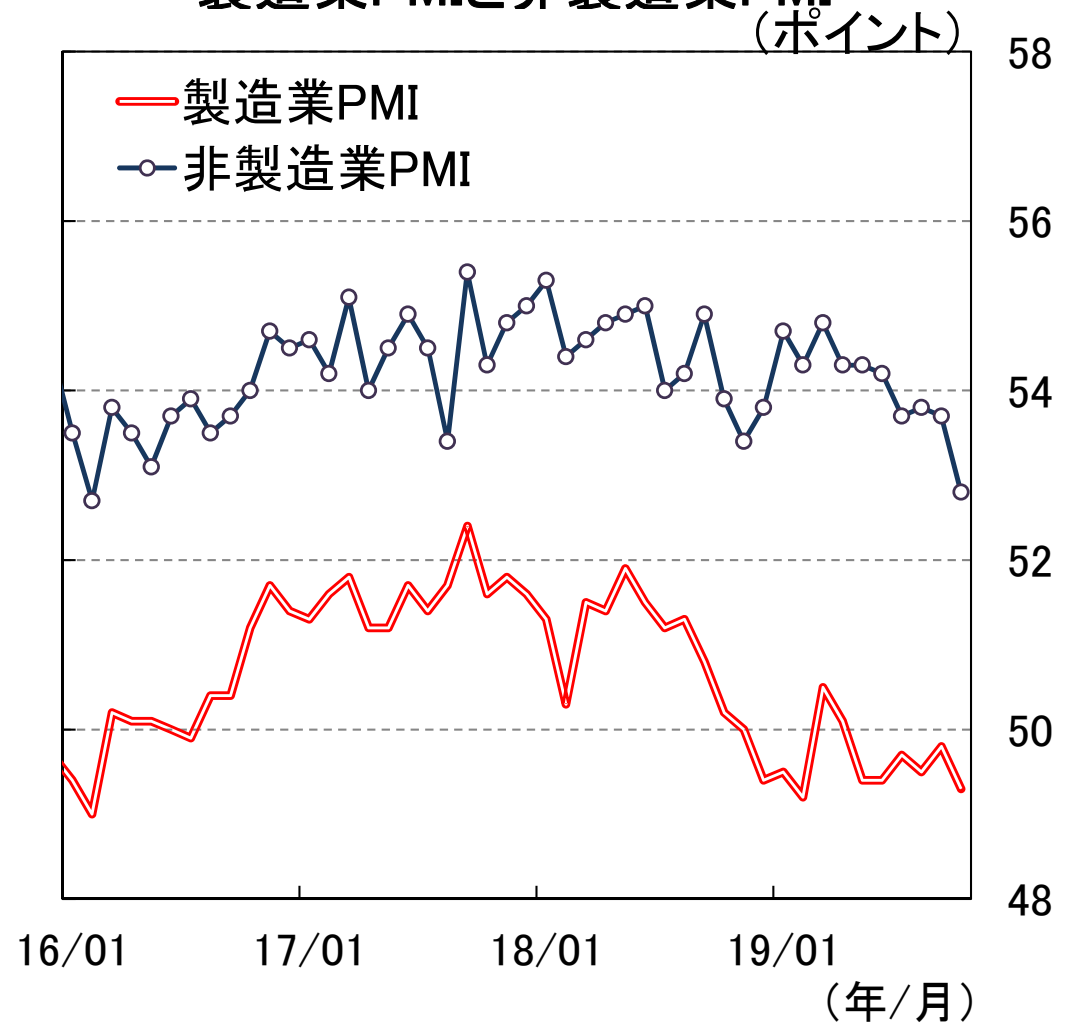
(資料) Bloomberg、中国国家統計局

鉍工業生産は緩やかに鈍化
製造業の景況感は低位で推移

鉍工業生産(前年比)



製造業PMIと非製造業PMI

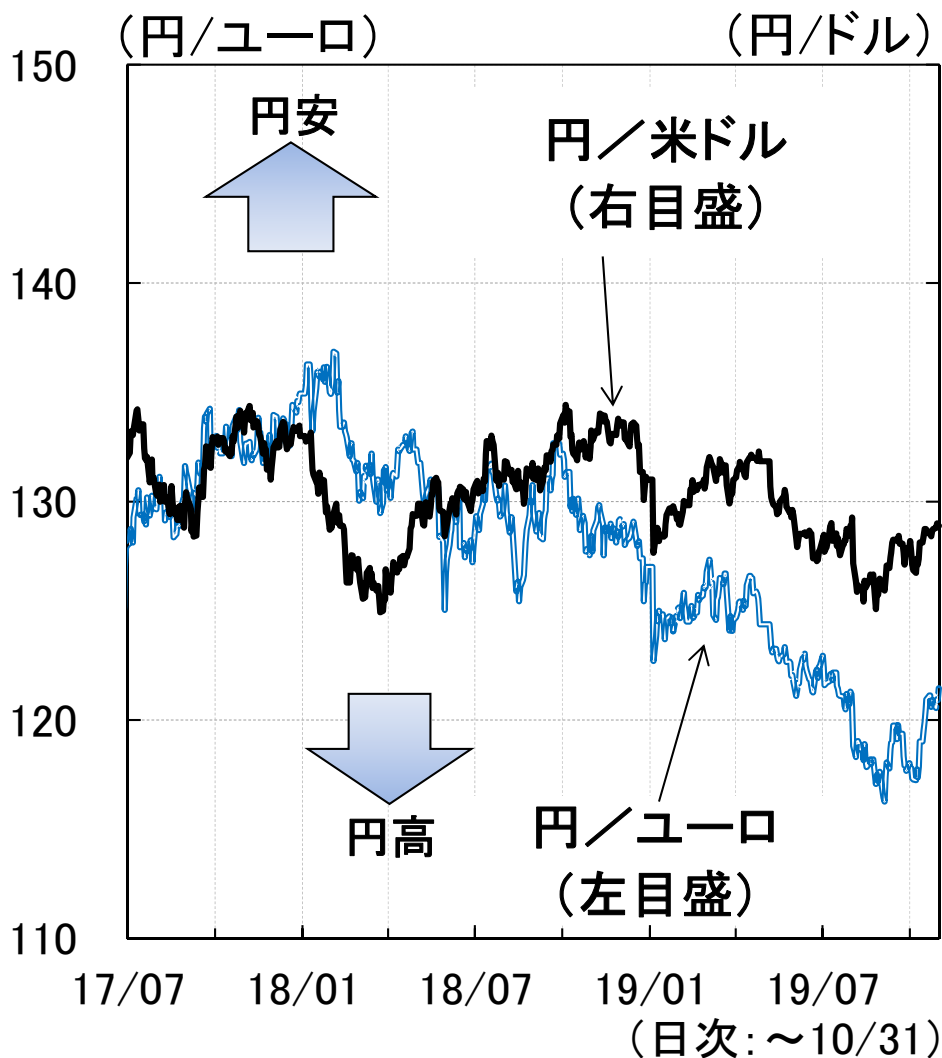


(注) 鉍工業生産の毎年1月、2月とも単月数値は未公表のため、1-2月累計値の前年比を記載。
(資料) Bloomberg、中国国家統計局

(資料) Bloomberg、中国国家統計局

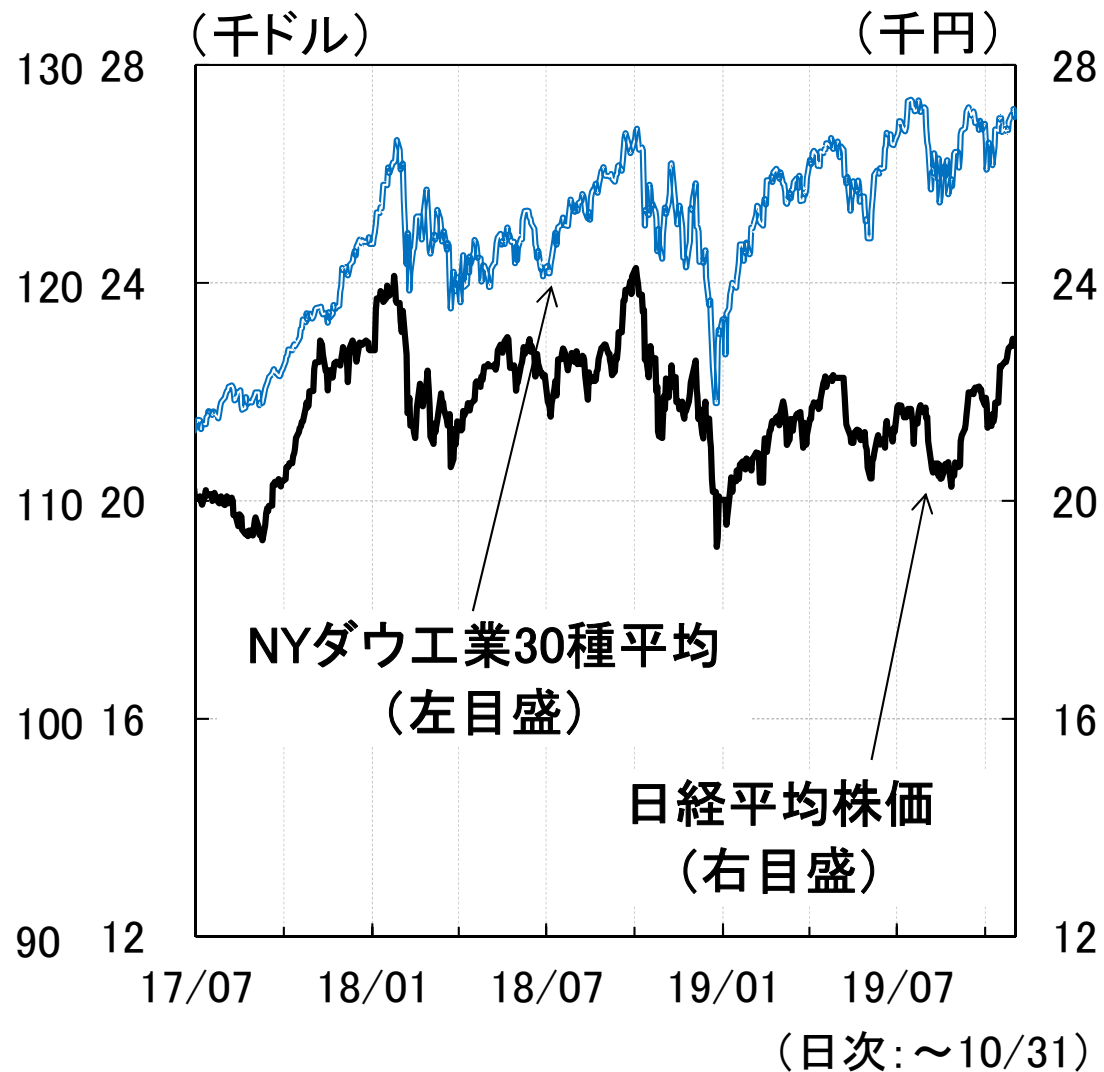
世界経済の減速懸念がみられる中、米中通商協議進展への期待等が支えとなり、概して円安・株高が進行。

為替相場の推移



(資料) Datastream

日米株価の推移

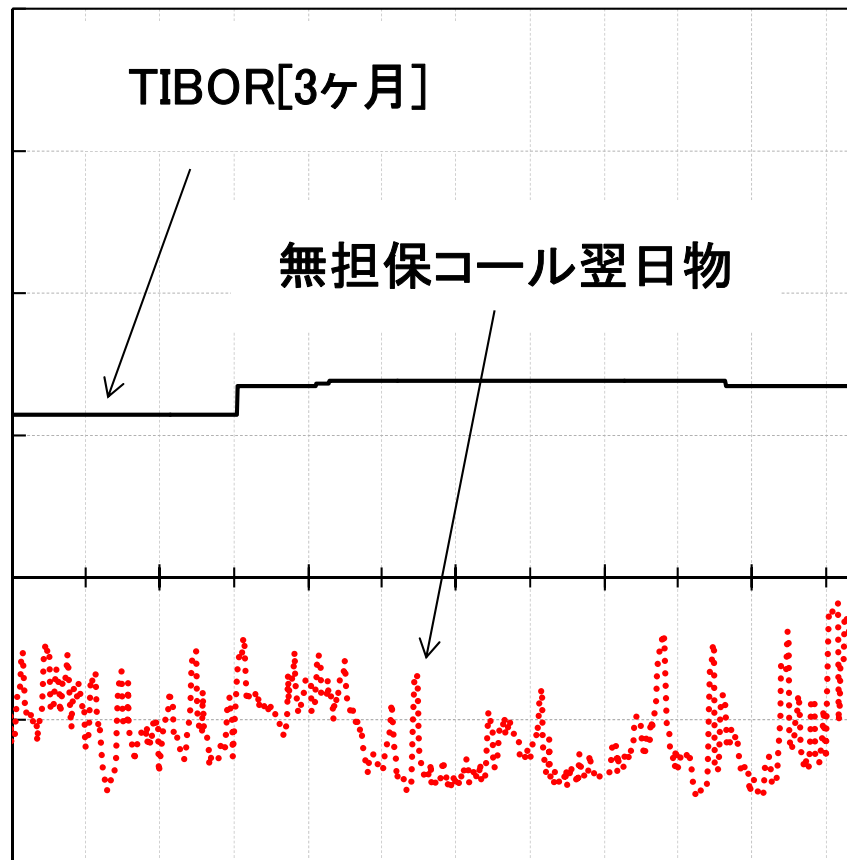


(資料) Datastream

長期金利は、月初に一時下落する場面もあったが、米中通商協議が部分合意に達したこと等で市場のリスク回避姿勢が緩和され、月間を通じて上昇基調に。

国内短期金利の推移

(%)

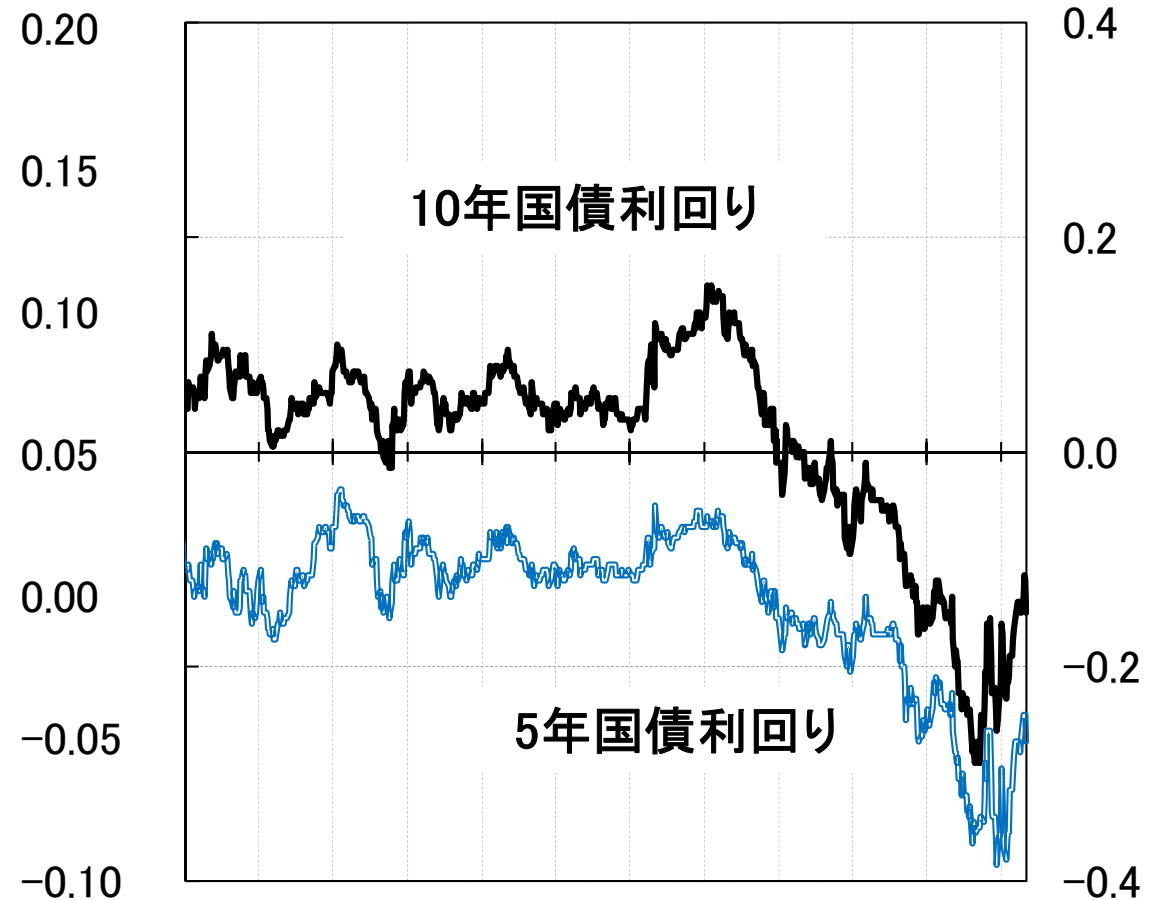


17/01 17/07 18/01 18/07 19/01 19/07
(日次: ~10/31)

(資料) Datastream、Bloomberg

国内長期金利の推移

(%)



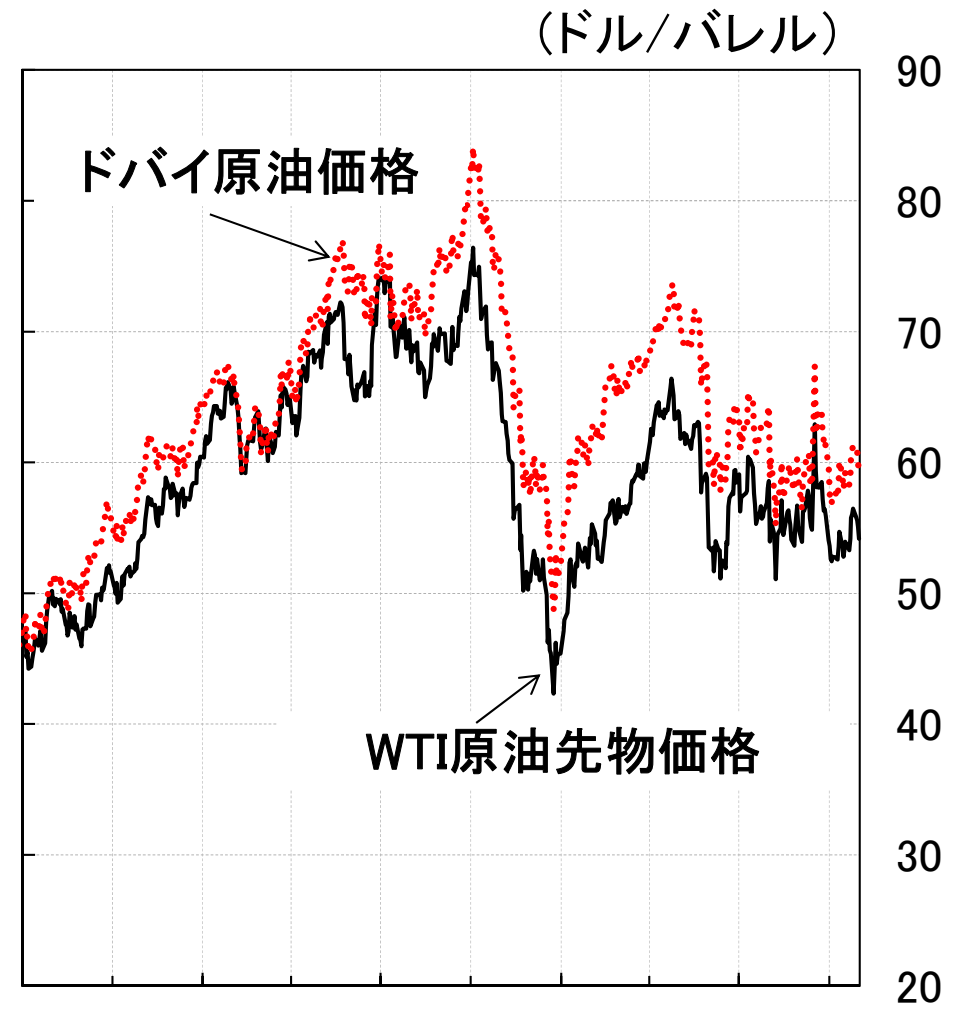
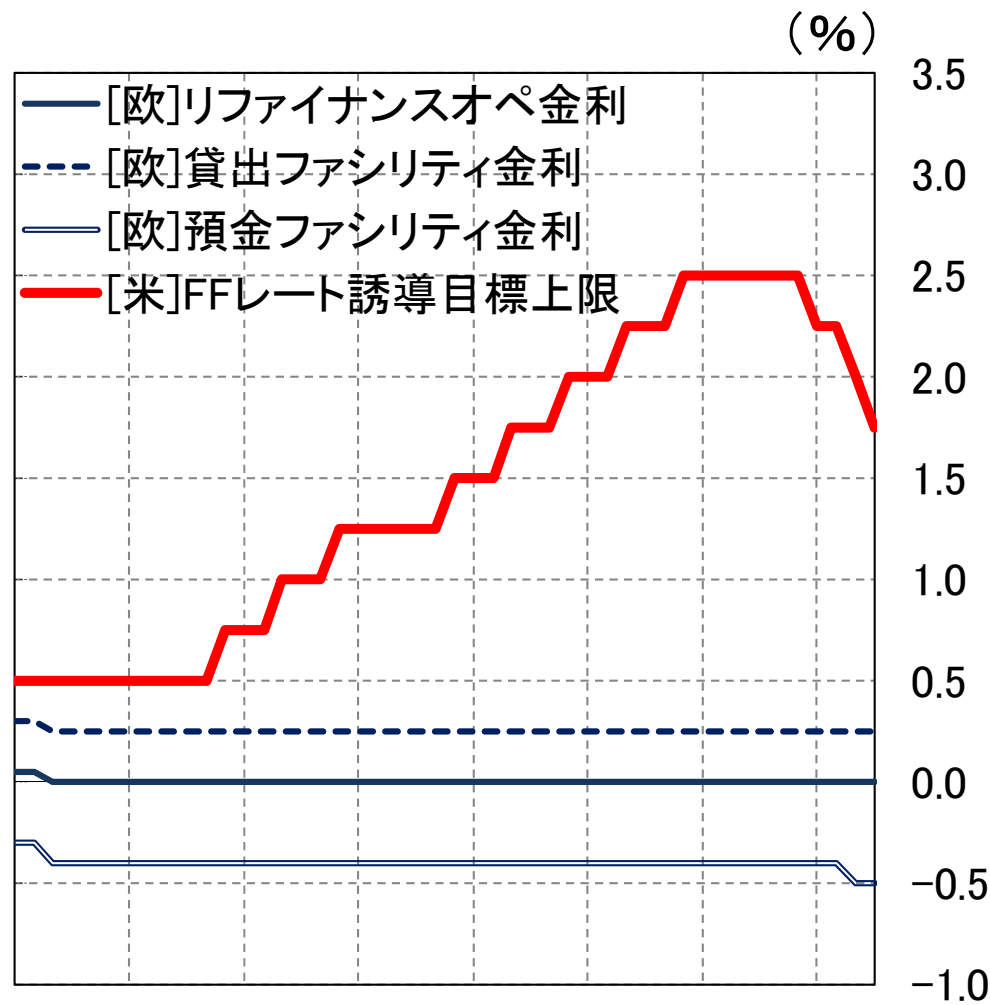
17/01 17/07 18/01 18/07 19/01 19/07
(日次: ~10/31)

(資料) 日本経済新聞社NEEDS-financialQUEST、Bloomberg

FRBは10月に利下げ。原油価格は月間を通じてやや上昇。米中通商協議の進展により世界経済の減速懸念が後退したこと等が買いにつながった。

欧米政策金利の推移

原油価格の推移



16/01 16/07 17/01 17/07 18/01 18/07 19/01 19/07
 (資料) Bloomberg (月次: ~19年10月)

17/07 18/01 18/07 19/01 19/07
 (資料) Datastream (日次: ~10/31)